



最後の体育祭で撮影した集合写真



地域の人も多数参加した最後の体育祭で、撮影した集合写真



地域への感謝を伝えた「まごころサンタ」



思い出の映像に笑みがこぼれる生徒



保護者や歴代校長、生徒らがグループで思い出を語り合い、発表



思い出を語る会のオープニングで、全校生徒が応援を披露



校旗を返納する中軽米校長



感謝の集いでは歴代の卒業生や教員、地域の代表など5人が思い出を語りました

伝統とたすきをつないできた

三崎中学校

全校生徒の力強い応援や駅伝の思い出話を通して、地域とともに歴史を振り返る



生徒代表・2年生 中村 未来さん

1年1年を過ごす中で、三崎中学校の行事にはすべて「最後」という言葉が付き、準備の段階からとても思いを込めて取り組んできました。中学校が統合された後も、その思いを忘れることなく、一生懸命頑張っています。



閉校記念事業 実行委員長 櫻庭 明雄さん

本校は地域の皆さんの支えによって築かれてきました。ここで育まれた絆や思い出は、今後も受け継がれていきます。長内中学校でも生徒たちが自分らしく成長していくことを願うとともに、地域全体で温かく見守り続けていきたいと思っています。

78年の歴史に幕
三崎中学校は、昭和22年宇部村第二中学校として開校し、これまで3346人の卒業生を輩出してきました。2kmのコースを走る朝ランを伝統に、県中学校駅伝競走大会での準優勝や東北大会への出場など輝かしい成績を残しました。
たすきをつなぐ特別な日
閉校式は3月20日に開かれ、約190人が見守る中、78年の歴史に幕を閉じました。式では中軽米央子校長が「たすきをつなぐ生徒たちの姿は努力と友情の象徴であり、三崎地域の象徴で



伝統の朝ランで汗を流す生徒

もありました」とあいさつ。同日開かれた思い出を語る会では、全校生徒が声を合わせて力強い応援を披露。駅伝黄金時代のトークや年代別インタビューなどを通して歴史を振り返り、参加者は学校と地域の思い出を分かち合いました。

緑の台地に構える地域の学校

侍浜中学校

先輩や地域の方の思い出話、映像とともに、79年の歴史を振り返る閉校の日



生徒代表・2年生 桑田 愛唯瑠さん

侍浜中学校は地域とのつながりが強い学校でした。環境整備や部活動の応援など、地域の子供たちとして見守ってくれたことが心強かったです。多くの時間を共にしてきた仲間と、地域の人とのつながりの中で、大きく成長することができました。



閉校記念事業 実行委員長 桑田 鉄男さん

地域の学校にPTAや同窓会として協力してきました。生徒の活躍は地域のうれしい話題でした。私は同校と長い付き合いになります。閉校は寂しいですが、侍浜の子供たちなら大丈夫。新しい環境で良い学校生活を送ってほしいです。

伝統のソラン、地域への感謝
侍浜中学校は、昭和22年に創立。4291人の卒業生を送り出しました。全国大会出場の歴史をもつ柔道部を始め、野球部やバトミントン部などが活躍。伝統の「侍ソラン」は脈々と受け継がれ、最後の体育祭では卒業生も参加し、ソランを披露しました。近年は奉仕活動「まごころサンタ」に取り組み、高齢者宅の窓ふきやごみ拾いを通して地域へ感謝を伝えました。
あふれる思い出
閉校式は3月14日に開かれ、約190人が出席。村



校旗を返納する村田校長

田賢校長から坂川孝志教育長へ校旗が返納されました。同日の感謝の集いでは、歴代の卒業生やPTA会長、教員を代表して5人が、在学時の思い出や中学校への思いを披露。各代の卒業写真や学校活動をまとめた映像も上映され、来場者は思い出話に花を咲かせました。